

日本沿岸域学会 研究グループ 研究計画提案書

平成 17年 4月 19日

研究テーマ		日韓海洋ごみモニタリング計画						
目的	<p>太平洋上を漂流する海洋ごみの主な発生源が東アジア圏域にあることが指摘されている中、日本沿岸だけでなく韓国沿岸においても隣国から越境してくる海洋ごみの問題が深刻化している。この海洋ごみの多くが、多様な発生原因を持つ生活ごみが主であり、かつ東アジア圏という広域な発生域を持つため、その解決には一国だけの発生抑制や回収対策では対応できなくなっている。現在日本、韓国では、海洋ごみ問題が国境を越えた環境汚染問題であることを認識してはいるものの、それぞれ独自に海洋ごみのモニタリング事業を行なおうとしている。本研究グループでは、国を越えた海洋ごみの発生抑制と回収処分対策を検討して行くために、日本と韓国の海洋ごみ政策の差異を明らかにすると共に、共通したモニタリング手法によるデータの共有の可能性について検討し、その実施を目標とするものである。</p>							
活動内容	<p>(1) 日本、韓国による海洋ごみ政策についてまとめる。 (2) これまで行われてきた指標アイテムを用いた漂着量の季節変動や流出起源調査の手法を元に、共同実施可能なモニタリング計画を検討し、その試行を行う。 (3) 結果は「日韓海洋ごみモニタリング計画」として取りまとめる。</p>							
グループの構成	世話人	氏名	会・非	専門分野	所属・役職	住所	電話番号	FAX番号
		藤枝 繁	会	海洋ごみ	鹿児島大学水産学部・助教			
		小島あずさ	会	海洋ごみ	JEAN・クリーンアップ全国事務局・代表			
	グループ構成員	金子 博	非	環境分析 NPO 活動	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス・代表理事			
		孫 明修	非	NGO 論	日韓市民スクエア・代表 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター・研究員			
		Sung Wook-Hong	非	海洋学	韓国海洋救助団・National Coordinator of International Coastal Cleanup			
	Kim, Hwan-Yong	非	沿岸環境学	韓国大統領諮問持続可能発展委員会 委員・Korean Network for Coastal Conservation, Chief Director				
日程表	研究期間	平成 17年 6月 ~ 平成 19年 3月			開催頻度	三ヶ月に一回程度		
	開催場所	随時決定する。			研究運営費			